



TITLE:

瀬戸だより(4月)

AUTHOR(S):

CITATION:

瀬戸だより(4月). 天界 1937, 17(194): 311-311

ISSUE DATE:

1937-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167475>

RIGHT:

瀬戸だより

(4 月)

◇花便りがにぎやかであつたと思ふと、もう花は散つたと云つてゐた、あはたどしい春である。春の女神は淡みどりの衣をつけて、かすみの中に、櫻の花びらで、頭を飾つて現れる。そしてその女神の息吹きが、柔らかな、そよ風になると、人々は隨喜の涙を流して、衣を着かへ、一瓢をたづさへて、花下に舞ふ。爛漫の春は、正に、一瓢の春である。

◇總選舉の聲に、巷は轟々してゐても、山の上は静かであつた。左右へ尾をふる風信器と、廻る風力計と、望遠鏡の筒が、星を追つて、西へかたむくだけである。

◇日記氣壓計が變な曲線を畫くと、きつと雨になる。さもなくば春霞である。のんびりとはしてゐるが、氣はイライラする。

◇4月中當觀測所から發行された、回報の数は前後14回で、18號より31號までである。新黃道星圖の計畫や、日濠國際協同觀測の日時改正、黃道光の光りの消長と黃道光の高さ、北方地平線に近い天空の明るさの調査（之は當觀測所で寫眞的に實行されるはず）等であつた。

◇又黃道光の明るさの正しい數字を出すために、黃道光、比較銀河、北極空に向けて、F2.0 のレンズの蓋が、晴天の夜は必ず取られるはずである。

(ミ、ス生)

～・～・～・～

～・～・～・～

～・～・～・～

山本先生が日食觀測に遠征されたため、内外の交渉を一手に引受けることになりました。少しでも好く觀測をまとめやうと思つて、得意な日本的英文をつづつて、外國の偉い學者達を相手にしてゐます。『生意氣なことをいふ奴』とわらつて居るでせうが、幸に顔が見えないので安心して、今後もますますその生意氣振りを發揮する筈であります。しかしアツサリ白狀しますと『やまとことば』はほんとによろしいね。

(荒木健兒)